

## 米国 2ヶ月連続の低下も製造業部門の好調さを示す高水準維持 (11年4月ISM製造業景気指数)

発表日：2011年5月2日（月）

～製造業部門は引き続き世界的に堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治  
03-5221-5001

### ISM製造業景気指数は60.4と前月比0.8%ポイント低下

4月のISM製造業景気指数は、60.4と前月比0.8%ポイント低下したが、市場予想を上回った（市場予想中間値59.5、筆者予想60.4）。2ヶ月連続の低下となったが、拡大縮小の分岐点である50を22ヶ月連続で上回ったうえ、高い水準を保持しており、米国製造業部門の好調持続を示している。製造業部門はドル安や好調な新興国経済等による輸出の増加に加えて、国内需要の緩やかな拡大に支えられている。また、拡大した業種数は17業種（前月15業種）と増加、拡がりを伴った拡大となっている。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、在庫（前月比+1.2%ポイント）が押し上げ寄与となったが、生産（同▲1.0%ポイント）、入荷遅延（同▲0.6%ポイント）、新規受注（同▲0.3%ポイント）、雇用（同▲0.1%ポイント）が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲0.8%ポイント低下した。

ISM統計発表直後の市場の反応をみると、同統計が市場予想を上回ったものの米金融緩和長期化観測が強く、10年債利回りは低下した。為替市場ではドルは対円、対ユーロで弱含んだ。株価は小幅上昇した。

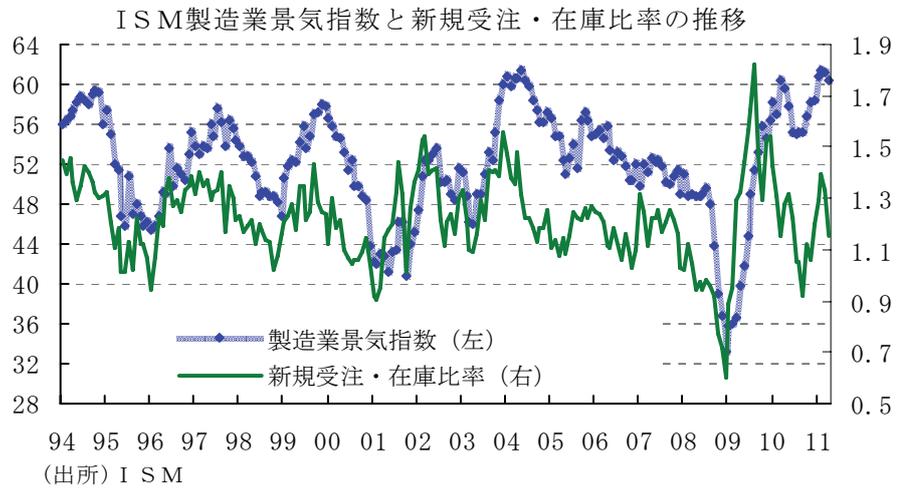
ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
10/07	55.1	52.9	56.9	57.6	50.3	58.0	54.5	57.5	56.5	52.5
10/08	55.2	53.7	57.2	58.2	50.9	55.9	51.5	61.5	55.5	56.5
10/09	55.3	51.6	58.1	56.9	56.0	53.8	46.5	70.5	54.5	56.5
10/10	56.9	59.9	61.4	57.9	53.2	52.3	46.0	71.0	60.5	51.5
10/11	58.2	59.6	58.2	59.0	56.1	58.1	46.0	69.5	57.0	53.0
10/12	58.5	62.0	63.0	58.9	51.8	56.7	47.0	72.5	54.5	50.5
11/01	60.8	67.8	63.5	61.7	52.4	58.6	58.0	81.5	62.0	55.0
11/02	61.4	68.0	66.3	64.5	48.8	59.4	59.0	82.0	62.5	55.0
11/03	61.2	63.3	69.0	63.0	47.4	63.1	52.5	85.0	56.0	56.5
11/04	60.4	61.7	63.8	62.7	53.6	60.2	61.0	85.5	62.0	55.5

### ISM製造業景気指数は低下傾向も高水準を維持する見込み

今後に関しては、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が11年2月をピークに低下しており、目先循環要因で低下傾向を辿ることを示唆している。ただし、世界的な景気拡大持続による輸出の増加や、世界的なハイテク需要の強さ等によってISM製造業景気指数は高い水準を維持すると見込まれる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



**輸出の堅調持続を示唆**

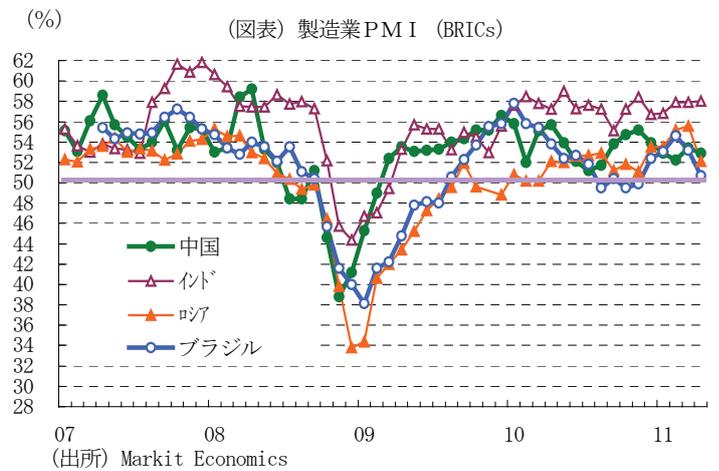
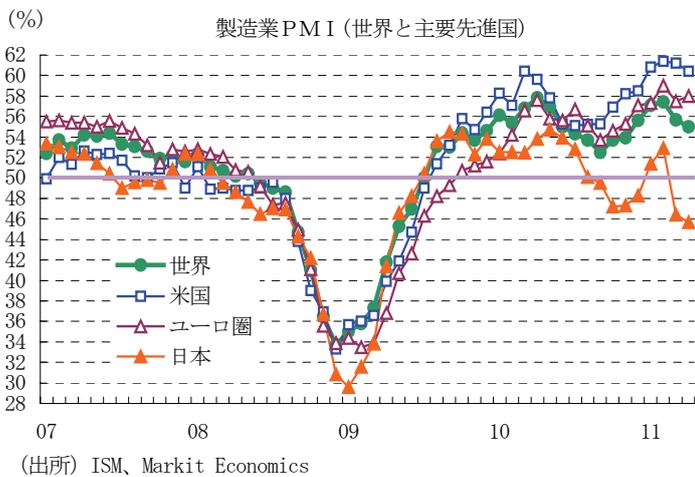
輸出受注DIが4月に62.0と前月比6.0%ポイント上昇したうえ、拡大縮小の分岐点である50を大幅に上回っている。新興国経済などの好調、ドル安等によって、米国輸出は高い伸びを維持することを示している。

**4月の世界製造業景気は低下も高水準を維持**

4月の各国の製造業景気指数をみると、多くの国で前月から低下したものの、高水準を維持している。先進国で前月から上昇した国・地域はユーロ圏、スウェーデンなど一部にとどまったが、低下したデンマーク、スイスなども50を大幅に上回り水準は高い。一方、日本では東日本大震災の影響により前月比で下落、50を2カ月連続で下回り製造業部門の縮小が示された。

ハイテク部門の影響を受け易い台湾は前月比上昇し、高い水準を維持している。BRICsではインドが前月比で上昇し高水準を維持した一方、ブラジル、中国、ロシアが低下し、これらの国の製造業部門は減速している。

これらの結果から、各国の数値を合成した世界製造業景気指数は4月に55.0（前月55.7）と小幅低下したが、日本の急激な落ち込みにもかかわらず高い水準を維持しており、世界的に製造業部門は好調さを持続していると判断される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**各国の米国向け輸出は  
11年に加速する可能性**

遅れて動く傾向がある輸入D Iは4月に55.5と前月比1.0%ポイント低下したが、高水準を維持、輸入の高い伸びが続いていることを示唆している。さらに、新規受注D Iが61.7と小幅低下したが高水準を維持していることから、先進各国やBRICsなど新興国の米国向け輸出は11年に加速すると考えられる。ただし、日本の輸出は東日本大震災の影響により当面下ぶれが続く見込み。

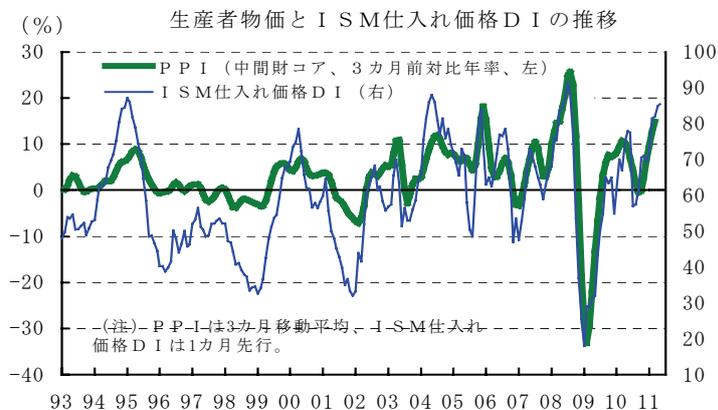
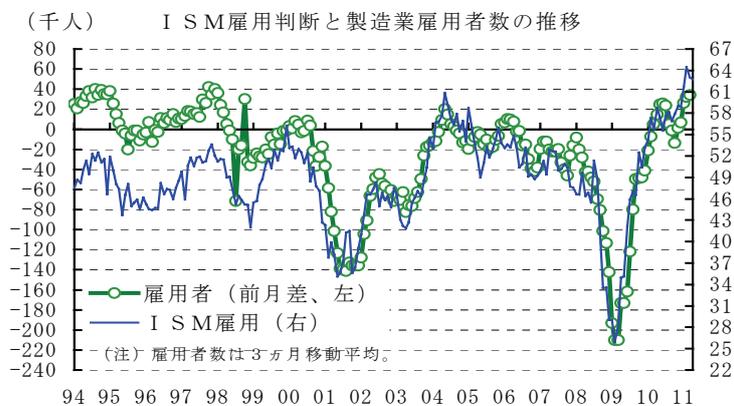


**雇用DIは62.7と製造業雇用の拡大持続を示唆**

雇用D Iが62.7と前月比0.3%ポイント低下したが、高い水準を維持しており、製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）は増加傾向を維持すると見込まれる。ただし、価格競争の激化する中でコスト削減圧力が強く、製造業部門での雇用の大幅な増加は期待できない。

**仕入価格DIは85.5と川中でのインフレ圧力の強まりを示す**

仕入価格D Iは、85.5と前月比0.5%ポイント上昇した。米国、日本などの金融緩和継続による潤沢な流動性供給、悪天候などによる食料の供給不足懸念、北アフリカ・中東情勢での民主化要求の強まりに伴う原油供給懸念などを受けたエネルギー・商品価格の上昇によって、川中でのインフレ圧力は強まっている。企業収益を圧迫するとみられ、企業はコスト削減圧力をさらに強め、雇用の拡大ペースに悪影響を及ぼすと見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。